

ドクター和のニッポン

# 臨終回巻



「君のことを治せなくて本当にごめんなさい」

ラグビーの神戸製鋼や日本代表でスター選手として活躍した平尾誠二さんをしのぶ感謝の集いで今年2月、京都大・iPS細胞研究所長の山中伸弥教授が弔辭で述べた言葉です。

山中氏は高校時代から平尾さんに憧れていたとい

ます。私も同年代、同じ神戸人として、若い頃から平尾さんが大好きだったので、計報に接したときは大きなショックを受けました。

平尾さんは2016年10月20日逝去。53歳という若さで天国のフイールドに旅立たれました。あれから1年がたとうとしています。

長尾和宏（ながお・かずひろ）医学博士。東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。近著「薬のやめどき」「痛くない死に方」はいずれもベストセラー。西国際大学客員教授。

## 25 平尾誠二



命を奪ったのは胆管細胞がんでした。一昨年亡くなった女優の川島なお美さんと同じがんでした。胆管がんは胆管細胞がんです。

胆管は、肝臓の中を通る直径10ミリ弱の管で、胆汁を十二指腸まで送り出す役割をしています。ですから、胆管がんは肝がんの一種とされていますが、肝細胞がんとはその性質も治療法も異なります。

2014年の統計では、肝が

肝がん全体の年間死亡者数は3万人といわれていますが、胆管がんはそのうちの10%。まだその原因も解明されていないのです。肝細胞がんはウイルス性肝炎や脂肪肝などハイリスクの人を重点的にフォローすれば早期発見・早期治療が可能です。しかし胆管がんはハイリスクグループが同定されてしまうと見つかることが少ないとめ早期発見は困難です。

その点、人間ドックでこれがんが見つかった川島さんはまれな例といえるでしょう。かなり進行した状態で見つかることが多く、5年生存率は30～50%です。発覚したときには余命半年ないし3カ月といわれることも少なくないかんなのです。平尾さんのがんが発覚したのは、亡くなる1年ほど

# 世界初にトライした最期

んは男性は肺、胃、大腸に続き死亡者数第4位。女性は第6位です。肝がん全体の年間死亡者数は3万人といわれていますが、胆管がんはそのうちの10%。まだその原因も解明されていないのです。肝細胞がんはウイルス性肝炎や脂肪肝などハイリスクの人を重点的にフォローすれば早期発見・早期治療が可能です。しかし胆管がんはハイリスクグループが同定されてしまうと見つかることが少ないとめ早期発見は困難です。

余命3カ月といわれながら、不屈の精神力で1年以上闘い抜いたミスター・ラグビー。生前残されたこの言葉が私は大好きです。

「時間は命の一部なんです。今この時間を大事にできない人は、未来の時間もきっと大事にはできない。次なる道は開けない」今、この時間を精いっぱい生きるだけ…。ほれますねえ。真にカッコいい男とは男にほれられる男。平尾さんはその鑑です。素敵でした。